

モウソウチク堆肥化

チップの山にホースで水をかける「きんたろう倶楽部」のメンバー—富山市古沢の市ファミリーパーク



富山発 元気印

きんたろう倶楽部

伐採後の活用方法探る

きんたろう倶楽部は美しい里山の姿を取り戻すため、モウソウチクの伐採に取り組んでいる。伐採したモウソウチクは、以前は細かいチップ状にして地面にまいたり、クラ

に堆肥が完成。日清製粉が成分を分析すると、チップの水分量などが堆肥に適していることが分かった。二年目となる今年は、七月に婦中(富山)自然公園(富山市婦中町羽根)でモウソウチク約千本を切り、チップにした。チップは市ファミリーパーク(同市古沢)の第三駐車場に運び、発酵促進剤を混ぜた。空気を取り込む必要があるため、これまで三回

里山再生に取り組むボランティア支援組織「きんたろう倶楽部」(西頭徳三会長)は昨年より、伐採したモウソウチクの堆肥化に取り組んでいる。増えたモウソウチクの活用方法として確立させたいと考えた。二年目を迎え、昨年作った堆肥の有効性の測定も進めている。

モウソウチクは繁殖力が強く、近年県内の里山で増え、ほかの広葉樹の生育を妨げている。竹細工に使うなど、人間が竹林に手を入れる機会が減ったことが、増えすぎた原因の一つとされる。

フトに使っていた。昨年、日清製粉(東京)から協力の申し出があり、七月に同社の発酵促進剤を使ってモウソウチクを堆肥に加する実験を始めた。モウソウチクを機械で砕いてチップにして、発酵促進剤を混ぜて

発酵させた。十月ごろ

森の中の作業や、炎天下

重機でチップの山をかき混ぜる作業をしたほか、水分量を保つために時々、ホースで水を掛けている。

昨年作った堆肥はメンバーが持ち帰り、各自野菜栽培や園芸に使っている。どの作物にどの程度効果があるのか、細かく測定するためだ。効果の高い堆肥ができれば付加価値が付く。メンバーは「堆肥化がモウソウチクの新たな活用方法となれば」と期待している。

でチップの山を混ぜるなど重労働が多い。しかし従事するメンバーの表情は明るいという。同倶楽部事務局の関原康子さんは「皆で作業すること自体が楽しいのかも少しなれ」と話している。

できた竹の堆肥 きんたろう倶楽部



重機でチップの山を掘り起こして混ぜる きんたろう倶楽部メンバー

里山再生を目指す富山市のボランティア支援組織「きんたろう倶楽部」(会長・西頭徳三富山大学長)は二十六日、市ファミリーパーク(同市古沢)で、伐採したモウソウチクの堆肥化のため、モウソウチクを細かく砕いたチップの

山を混ぜて発酵を促した。

同倶楽部はモウソウチクの有効活用法の確立を目指し、昨年より堆肥化の実験を進めている。二回目のことは、七月に同市の婦中ふるさと公園でモウソウチク約千本を伐採。チップにして同パークの第三駐車場に運び、発酵促進剤と混ぜた。

この日は四回目の攪拌で、メンバー九人が集まり、チップの山を重機で掘り起こして混ぜた。メンバーはチップの発酵臭をかいたりして、堆肥としてほぼ出来上がっていることを確認した。堆肥は来春から家庭農園などに使う。